

科目名	器質性構音障害			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期
【授業の目的・ねらい】 本授業を通じ、口蓋裂にともなう鼻咽腔閉鎖機能や構音障害についての基本的知識をもち、器質性構音障害の言語症状についての評価と治療ができるようになる。							
【実務者経験】 姫路市社会福祉事業団、姫路市総合福祉通園センターなどで小児発達分野の言語聴覚療法に従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 口蓋裂に関する基本的知識を習得し、器質性構音障害の評価およびアプローチについて学ぶ。口腔がんによる構音障害の原因、評価方法、訓練法、チームアプローチを学ぶ							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 口蓋裂に関する基本的知識を習得し、臨床の場において器質性構音障害の評価およびアプローチを行うことを可能とする。および成人器質性構音障害の評価、訓練、チームアプローチの理解ができる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	器質性構音障害(口蓋裂)の定義と疾患について理解できる。						
2	器質性構音障害(口蓋裂)の発生学における基本的概念について理解できる。						
3	器質性構音障害(口蓋裂)の解剖学的理解ができる。						
4	口蓋裂患者と家族に対する支援と役割が理解できる。口蓋裂の発生・分類・頻度について理解できる						
5	免疫学的な視点から(口蓋裂の発生、裂型分類、発生頻度)について理解できる						
6	口唇口蓋裂についての問題点について理解できる。						
7	口唇口蓋裂についての治療方針と手術について理解できる。						
8	口唇口蓋裂についての言語指導について理解できる。						
9	成人器質性構音障害の概論 正常解剖生理						
10	舌癌の手術とそれによる構音障害						
11	成人器質性構音障害の評価						
12	成人器質性構音障害の訓練						
13	チームアプローチ						
14	まとめと国家試験対策						
15	まとめと国家試験対策						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚療法シリーズ7 機能性構音障害							
【準備学習・時間外学習】							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】							
試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。							